

おやけぶんそうと おやましゅんざん 真岡市荒町
小宅文藻と小山春山

小宅文藻は、寛政5（1793）年5月に生まれました。小宅家は、江戸時代に荒町にあった、真岡木綿買継問屋渋川屋で、文藻は3代目の当主でした。幕末の勤王の志士として有名ですが、書家、画家、としても名高い人です。当時江戸で活躍していた谷文晁の門弟でもあり、市の指定有形文化財になっている「紙本著色 日出鶴図 六曲屏風 一双」は、小宅文藻の最高傑作の一つです。



小宅文藻の最高傑作「紙本著色 日出鶴図 六曲屏風一双」（撮影 上野訓宏）

小山春山は、本名を塚田朝弘と言い、文政9（1826）年3月に生まれました。塚田家の先祖が小山氏の出であることから小山を名のりました。塚田家は春山の父の代まで真岡木綿の買継問屋を営んでいました。春山も文藻と同様に勤王の志士としても活躍し、江戸幕府の大老安藤信正を襲撃した「坂下門外の変」を計画したとされています。

右の作品は春山の本家にあった松の木が、何度かの母屋の火事にあうも生き残り、青々と茂る様子を描いたものです。春山は、「松寿堂庭上乃松」と名付けた事など画賛に記しています。画賛は安政3年に書かれたものです。小宅文藻と小山春山は30歳以上も年齢が離れていますが、幕末から明治にかけ、真岡の文化の中心にいた人物といえます。二人の合作であるこの作品は、真岡を代表する大変貴重な歴史資料です。



小宅文藻と小山春山の合作 「松寿堂庭上乃松」 →